１１月２２日に開催されたシンポジウム「次世代をはぐくむ、住まい・まちづくり」に参加された皆さんにアンケートへのご協力をお願いしました。記入いただきましたご感想やご質問の内容（講演者別と全体）と、講演者からのコメントを報告します。

（同内容のご意見・ご感想はまとめて掲載しています。）

事例報告１：碓田智子（大阪教育大学・教養学科・准教授）

以下、アンケート回答より感想を掲載します。

○昭和 40 年代位までの生活様式のアプローチ。（江戸・明治では客観性が乏しいのでは？）（50歳代）

○伝統文化を知ることを将来にどう生かすかの議論が欲しい。現在の社会で使う機会がない文化を知って再現するところがない。現在の生活様式から何を学ぶかも必要と思う。（60歳代）

○宿泊という具体的な方法で、文化を伝えるイベントは非常に面白いと思います。できれば市内の町屋でできると良いと思います。（40歳代）

○日本の文化の姿が失われつつある状況が改めて理解できました。なんとかしないといけませんね。（40歳代）

○ボランティアの皆さんの持っている大阪の良い文化をどう次の時代に継いでいけるのか、学生さんたちの参画は本当に良い試みだと思います。天神祭の楽しさなども子供たちに伝えていけたらなあと思います。（50歳代）

○日本の文化を外国人に、もっと体験してもらう。日本の発信基地になります。（50歳代）

○世代による生活体験がいかに変わってきたかを改めて感じました。子供達に日本文化を伝えることは非常にいいことだと思います。ただ、実生活の中に今後とり戻していくことができるでしょうか？　取り戻すべきでしょうか？　環境重視の流れの中では必要性はあると思いますが、一度便利な生活を覚えるとなかなか戻れない面がありますから。（50歳代）

○教える立場の人が知っている「納戸とか障子」、今の子は知らないから教えたいと思うのはエゴでは？　文化は変化します。いつもこういうことを言う人に違和感を感じます。教える立場の人が教えられる立場の時、同じ事を言われたと思います。洗たくは洗たく板でしたとか、ゴハンはマキでたいたとか、おみそ汁のかつおぶしはけずって使ったとか・・・。昔の良き事、今も大切なことなら知る機会があるはず。今昔館での体験はいい経験になるだけで、各自の生活の中にはおちてこない。（40歳代）

○子どもの“住生活力”が落ちている。それをどう補うかとおっしゃったが、これはすなわち親世代の住生活力が落ち、生活文化に対する感心がなくなっているのではないのか？（40歳代）

○昔のことを子供達が学ぶことはいいことだと思います。今は障子もはったりしないので子供達はいい体験をしたと思います。（30歳代）

○子供達の年代？（学年）→その母親父親の参加は？各区の子供達が混合？先生の参加は？（60歳代）

○昔の伝統的な文化などが今、私自身もうっすらとしか知らないなと思うことも多く、大いに共感しました。（30歳代）

○博物館の活動方法として、面白い事例と思います。（50歳代）

碓田智子よりコメント

多数のご意見、ご感想をありがとうございました。

今回は、大阪くらしの今昔館と協働で行った小学生向けの住文化体験イベントを中心に報告させていただきました。

今昔館の展示室は江戸時代の暮らしと町をテーマとしますので、それに併せて体験できる内容がどうしても限定されます。また、参加者は一般公募でしたので、３年生から６年生まで学年も学校もバラバラです。そんな中での、ささやかな一回だけの体験にすぎませんが、子どもたちに暮らしの文化に関心を持ってもらう一つのきっかけになってもらえたら・・・と思って実施したイベントです。今の生活の中に昔の生活の良さを取りもどすことを伝えるのが目的ではなくて、子どもたちに、現在の近代的な生活の中にも歴史的な文化がつながっていることに気づいてもらえればよいと考えています。今昔館は、そんな役割をする博物館だと思います。

保護者の方にも一緒に参加していただきましたが、保護者世代の方自身も普段しないことを経験できて興味深かったという感想をいただいています。今昔館は日頃もさまざまなイベントを行っている体験型の博物館ですので、また、ご家族一緒に来館して楽しんでいただければと願っています。

また、今回報告しました今昔館とのタイアップ事業の報告は、住まい情報センターのホームページ「すまい・まちづくり・ネット」にも掲載されていますので、併せてどうぞご覧ください。